



1. 新年のあいさつ
2. アドバイザリーボードによる企業相談会開催
3. 文科系産学連携スキーム検討委員会活動状況
4. 同志社大学プロジェクト科目に採択

会報

NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワークホームページ
<http://www.doshisha-net.org/>

発行 NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク（同志社大学リエゾンオフィス内）

□ 京田辺 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 TEL:0774-65-6223 FAX:0774-65-6773

□ 今出川 〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103 TEL:075-251-3147 FAX:075-251-3046

1. 新年のあいさつ

新年あけましておめでとうございます。旧年中はNPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワークの活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございました。

同志社大学の産官学連携活動を支援し、その研究シーズを社会に還元することで社会貢献を実現していくことを目的として活動をしてまいりましたが、簡単に成果の出る性格のものではなく、またこのようなボランティアを主体とした産学連携支援活動は他に例がないため、試行錯誤を繰り返してきた2年間ではなかったかと思えます。多大なご支援をいただきながら、それに見合う成果を出すことができずに皆様にははがゆい思いをさせているのではないかと懸念しております。

しかし、皆様の積極的な提案と自主的な活動により、少しずつではありますがNPO活動が広がりを見せてきております。昨年は同志社校友会大阪支部・産官学部会（LCC）と共催によるシンポジウムの開催や、新しい研究会が立ち上がりました。アドバイザリーボードによる企業相談会や文科系産学連携スキーム検討部会など、今年は本格的な活動を展開していくことになると期待しています。

今年も皆様といっしょに、NPO活動を前進させるために微力ながら力を尽くしてまいりますので、積極的なご意見とご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年一年の皆様のご多幸を祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

理事長 八田 英二（同志社大学長）

新年あけましておめでとうございます。旧年中は当NPOへのご協力誠にありがとうございました。本年も益々のご協力をお願い申し上げます。

さて、昨秋の総会において新理事多数が新たに選任され組織面の充実が図れましたことを受けて、本年は、会員の皆様により一層参加して頂きやすい活動を行いたいと考えております。交流会その他のイベントだけでなく、具体的な産学連携活動に会員の皆様それぞれがご参加いただけるよう、新任理事を含めた各理事が中心となってご提供していきたいと考えておりますので、ご参加ご協力宜しくようお願い申し上げます。

また、具体的な成果も上がっております。例えば、同志社大学インキュベーション施設「D-egg」の入居企業を中心としてベンチャー企業の支援活動を昨年末から開始しており、これを本格化させる方向で進めております。NPOが支援する同志社発ベンチャーの成功事例を増やす基礎を本年中に作りたいと考えております。加えて、同志社大学のプロジェクト科目にも当NPOが科目申請を行い、採択されました。今春から授業が開始されます。

こうした成果も上がっておりますが、本年は、一層の発展を図りたいと考えており、それには皆様のご協力が不可欠です。皆様、重ねて宜しくようお願い申し上げます。

副理事長 五島 洋（弁護士：飛翔法律事務所）

2. アドバイザリーボードによる企業相談会開催

アドバイザリーボードはベンチャー企業などの応援団であり、産学連携の成功事例を輩出することを目的としています（大学発ベンチャー企業などの立ち上げ支援など）。支援対象は同志社大学連携型インキュベーション施設 D-egg の入居企業などですが、それ以外の企業でも相談を希望する場合には応じます。

12月15日にアドバイザリーボードによる初めての相談会を開催しました（近畿経済産業局の事業である、KITコミュニティと連携し「個別相談会 in D-egg」として実施）。

概要は以下のとおりです。

日時：12月15日（金） 14:30～15:30、15:30～16:30、16:30～17:30 の3回

開催場所：同志社大学京田辺キャンパス

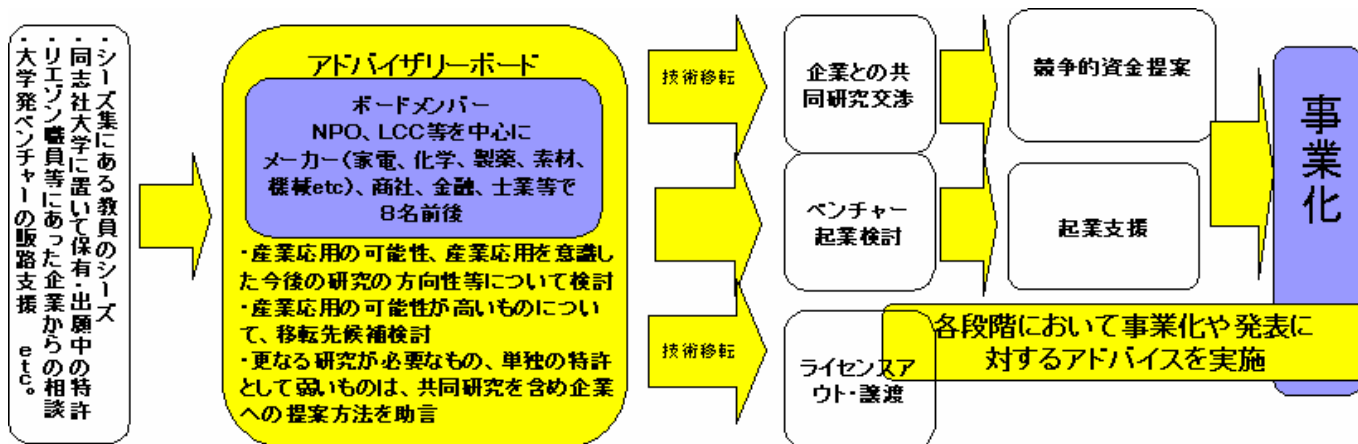
応対者：五島洋氏、眞下晋一氏、大谷康弘氏、入江修二氏、坂倉隆雄氏、永田和彦氏

内容：技術系ベンチャー企業、ソフト開発会社、ウェブ関連システム開発会社の3社からの相談に応じました。そのうちの2社は12月にオープンした同志社大学連携型インキュベーション施設に入居している企業であり、D-egg入居企業への初めてのサポート事業でもありました。

相談内容としては、インターンシップとして学生を受け入れ業務をさせているがその契約に関するものやウェブ上の情報を利用する場合の問題や利用方法についての質問があり、それぞれの分野の専門家が的確な助言を与えていました。また、ソフト開発や販売戦略についてのアドバイスも行いました。相談の多くは即時に回答ができる内容でしたが、技術系ベンチャー企業の場合は外国出願などを含め既に多くの特許出願を行っており、企業との共同研究との関係もあり、情報を整理した上で課題の把握を行う必要があると判断しました。社会性の強い企業でもあり、当NPOとしては継続的に支援をしていく予定です。

今回の相談を受けた企業の経営者からは「これまでは特許については弁理士に、契約関係については弁護士からアドバイスを受けていたが、個々の問題の回答だけでは企業の経営などの解決にはならないことなどがあった。今回は各方面の専門家が一堂に会しているため、包括的な助言なども得ることができて有意義であった」という声がかかれた。

次回は、2月6日に同志社大学京田辺キャンパスで開催予定です。



3. 文科系産学連携スキーム検討部会活動状況

当部会では、実績の少ない文科系産学連携のスキームを新たに発掘することを目的としています。これまで、2回の部会を開催しましたので、現状について簡単ですが報告します。

第1回目は10月31日に西田順一氏、小川佳秀氏、余語真夫氏、大神正寿氏、平野章生氏の参加により行いまし

た。まず、同志社大学リエゾンオフィススタッフから同志社大学の産学連携の活動状況の説明があり、文科系スキームの事例報告がありました。また、同志社大学文学部の余語先生から、現在関わっているプロジェクト（化粧文化センターなど）について説明があり、その後自由に意見交換を行いました。

第2回は12月8日に西田順一氏、大野芳隆氏、小川佳秀氏、余語真夫氏、片井加奈子氏、南了太氏、平野章生氏の参加で行われました。前回の討議を受けて余語先生から「化粧と心理・医療・福祉」という内容で講演をいただき、化粧の人間心理に与える影響について科学的なデータも交えて説明がなされました。心理学のニーズが高まってきており、同志社大学はストレス研究・感情研究において実績があり、効果検証を行っていることもあり他の研究機関に比較して優位性があります。参加者からは「美容院、百貨店の化粧品コーナー（美容部員）では既に化粧のサービスを行っているため、どう差別化するのか？（技術レベル、安全性、価格面、ターゲットなど）」、「化粧と栄養学をミックスさせた取り組みはできないか？」など様々な意見が出され、話しは予定時間を越えてなかなか尽きませんでした。

今回は1月26日に同志社大学今出川キャンパスで開催予定です。内容は、「化粧」を一つのテーマにしたうえでもう少し多角的に分析を行う、「化粧」について学んでいる学生さんの意見を参考にすることなどを予定しています。また、化粧以外の事例についても自由に意見を出しあうことにしています。

まだ手探りの状況ですが、ディスカッションを楽しみながら行っているのがこの部会の特徴のように思いました。皆さんのなかで、この取り組みに関心のある方がいらっしゃいましたら事務局までご連絡ください。

4. 同志社大学プロジェクト科目（正規授業科目）に採択

【同志社大学プロジェクト科目とは？】

2006年度から同志社大学の授業科目（全学共通の教養教育科目）として設置されました。本科目の趣旨と目的は「従来の教室での座学中心の授業形態とは異なった実践型・参加型の学習機会を重視したプロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）を基本とする」新たな科目群を開設し、「地域社会や企業の方々を講師として招き、地域社会と企業が持つ『教育力』を大学の正規の教育課程の中に導入することです。学生に生きた知恵や技術を学ばせるとともに、『現場に学ぶ』視点を育み、学生が具体的・実践的プロジェクトに即して問題の「所在」と「解決」を考え抜く力を陶冶すること」にあります。

【選定結果】

2007年度開講科目の公募の結果、延べ62件の応募があり、32件のテーマが採択となりました。応募者の内訳は、民間企業13件、自治体1件、NPO・社団、財団法人等の団体16件、個人32件（学内専任教員1件を含む）でした。

【当NPO提案内容】

科目名称：'知的財産の最前線から学ぶ' -社会で役立つ知財をみにつける-

開講期間：2007年度春学期 開講校地：同志社大学京田辺キャンパス

科目担当者：NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク 副理事長 五島 洋氏

科目代表者：同志社大学工学部助教授 廣安知之氏

その他NPO関係者講師予定者：理事 眞下晋一氏（弁理士）、中尾敦信氏（知的財産コーディネータ）

概要：

近年、知的財産の重要性が強く叫ばれています。特に政府主導にて「知財立国」を目指した活動が活発になされています。知的財産への取組みは企業では早くからなされていましたが、5年程前より大学、研究所、中央省庁、地方自治体等でも知的財産部門を設立し、産官学連携を初め各分野の活性化起爆剤の一つとして「知的財産」を重視

しつつあります。その影響を受けて、知的財産分野に投入される費用も大きく伸びるとともに知的財産担当人員も大幅に増加しています。その結果、大企業は勿論、大学や中小企業・ベンチャー企業・地方自治団体等の職員への知的財産知識の普及の為に、種々の施策がなされ、徐々に根付きつつあります。一方、これからの社会を担う大学生に対しての知的財産教育も徐々になされつつあるものの、同志社大学では系統的な知的財産教育が十分になされているとは言い難いのが実情です。特に知的財産を事業や研究開発に如何にして役立てるかの面からの学生への啓蒙に弱い面があります。そこで、本科目では知的財産に係る基礎的知識についての教育に加え、企業活動における知的財産の実際と知的財産情報の研究開発への活用を学生が自ら体験することにより、正しい知識の取得と興味を持たせることを主眼とします。実習として知的財産紛争の最前線である裁判の傍聴を行い、企業間競争の厳しさを肌で感じると共に、パテントマップの作成で知的財産情報の研究開発への活用を実体験いたします。尚、パテントマップ作成では、理科系の学生には技術を中心とした「特許」を、文科系の学生には商品企画を中心とした「商標又は意匠」について調査分析を実施し、分析結果から見える「将来」について発表を行ないます。

実施回	内容(予定)
1	知的財産制度の全体像&最近の知的財産を取り巻く状況
2	知的財産権とは！ その具体的内容
3	企業における知的財産の活用方法&知的財産戦略とは
4	知的財産関係訴訟の現状
5	裁判所見学
6	発明は如何にして生まれるか&発明を如何にして展開するか
7	特許出願書類の作成方法
8	特許係争の実際
9	特許情報の重要性&調査方法
10	特許情報調査の実習（手作業による実習）
11	パテントマップの作成実習（1）
12	パテントマップの作成実習（2）
13	発表会

5. その他

(NPO 理事長、副理事長と正法人会員との交流懇談会)

- ・ NPO 理事長、副理事長と NPO 正法人会員の皆様と 12 月 5 日に交流懇談会の機会を持ち、NPO 理事長から NPO 活動に対する日頃の支援に対する謝辞を述べるとともに、正法人会員の皆様からは NPO 活動に対する多くのご意見を頂戴しました。食事をしながらの短時間での懇談ではありましたが、日頃直接お話をうかがうことがないため、有意義な時間となりました。

(ホームページのリニューアル予定)

- ・ NPO のホームページがオープンして 2 年が経過しました。2007 年 4 月を目処にリニューアルを行うため、現在コンテンツの見直しなどを行っています。新しいホームページにご期待ください。

(会員の皆様からの情報提供のお願い)

- ・ 会員の皆様から情報提供（新商品、事業案内など）を NPO メールマガジンなどで紹介していきますので、皆様からの情報提供をお待ちしております。